

全数及び定点(週単位報告)把握対象疾患

- 発生動向の概況 《2005年37週》
- 定点医療機関からのコメント
- 全数把握対象疾患 患者報告数
- 五類定点把握対象疾患 患者報告数

男女別

推移グラフ

保健所別

保健所別(定点当たり)

年齢階級別

- 病原体・抗体検査情報

週別検出状況

臨床診断名別検出結果

クローズアップ「腸管出血性大腸菌感染症」

- 感染症豆知識「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」

東京都医師会感染症予防検討委員会

事務局:東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話:03-3363-3213(直通)

FAX:03-5332-7365

E-mail: idsc@tokyo-eiken.go.jp

アドレス: idsc.tokyo-eiken.go.jp/



全数及び定点(週単位報告)把握対象疾患

発生動向の概況 《2005年37週》

(全数把握対象疾患)

- ・今週報告された腸管出血性大腸菌感染症12症例中2症例でバーベキュー、ステーキの喫食が確認されている。また、O157 VT2の1症例、O157 (VT1+VT2)の1症例はそれぞれ36週報告症例の同一家族である。
- ・今週報告されたデング出血熱の1症例(血清型:3型)は他疾患により死亡している。

区分	疾患	報告件数	情報 (検出病原体・血清型・推定感染経路等)	推定感染地
二類	細菌性赤痢	6	ソネネ菌	国内3件、中国1件、 インドネシア1件、 インド1件
	腸チフス	1		フィリピン
三類	腸管出血性 大腸菌感染症	12	O157 VT2(7件)、O157 VT1・VT2(5件)	国内11件、不明1件
四類	E型肝炎	1	推定感染経路: 飲食等による経口感染	中国
	デング熱	5	デング熱3件、デング出血熱2件 血清型: 1型1件、3型2件、不明2件	モルジブ1件、 フィリピン1件、 インドネシア(バリ)1件、 スリランカ2件
五類	アメーバ赤痢	2	推定感染経路: 同性間性的接触1件、不明1件	国内
	HIV感染症	5	無症候性キャリア2件、AIDS2件、その他1件 推定感染経路: 異性間性的接触2件、 同性間性的接触2件、不明1件	国内3件、 ザンビア1件、 不明1件
	梅毒	1	早期顕症梅毒 I 期 推定感染経路: 異性間性的接触	国内

(推定される感染経路及び感染地は医師の届出によるものである。)

(定点把握対象疾患 ー小児科・インフルエンザ・眼科・基幹定点ー)

- ・流行性耳下腺炎の報告数が高い状況で推移している。

(検査情報)

臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
手足口病、髄膜炎	4	咽頭拭い液	エンテロウイルス、ヒトヘルペスウイルス6型	遺伝子
		糞便	エンテロウイルス、ヒトヘルペスウイルス6型	
髄膜炎	1M	髄液	エンテロウイルス	
髄膜炎	4	糞便	エンテロウイルス	
髄膜炎	3	髄液	エンテロウイルス	
咽頭炎、髄膜炎	4	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
硬膜下膿瘍	8	咽頭拭い液	アデノウイルス、サイトメガロウイルス	

臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
気管支炎、咽頭炎	3	咽頭拭い液	アデノウイルス	遺伝子
急性腸炎、上気道炎	2M	糞便	アデノウイルス	
咽頭炎	6	咽頭拭い液	アデノウイルス	
咽頭炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス	
急性気管支炎	3M	咽頭拭い液	アデノウイルス	
喘息様気管支炎	2	咽頭拭い液	RSウイルス	
急性腸炎	1	糞便	エンテロウイルス	
肝機能障害	1	咽頭拭い液	EBウイルス	
ヘルパンギーナ	10M	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA6型	* 分離
ヘルパンギーナ	3	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA6型	
ヘルパンギーナ	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA6型	
ヘルパンギーナ	4	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA6型	
ヘルパンギーナ	3	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA6型	
ヘルパンギーナ	2	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA10型	
手足口病	2	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA6型	
川崎病	6	糞便	アデノウイルス3型	
アデノウイルス感染症	8	咽頭拭い液	アデノウイルス4型	
髄膜炎	4	髄液	エコーウイルス30型	
無菌性髄膜炎	40	糞便	エコーウイルス30型	
発熱	1M	髄液	エコーウイルス30型	
急性肺炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス1型	
歯肉口内炎	6	咽頭拭い液	単純ヘルペスウイルス1型	
流行性角結膜炎	29	結膜拭い液	アデノウイルス2型	
流行性角結膜炎	5	結膜拭い液	アデノウイルス2型	
感染性胃腸炎	2	糞便	コクサッキーウイルスB4型	
感染性胃腸炎	4	糞便	アデノウイルス2型	
下痢症	不明	糞便	コクサッキーウイルスB4型	
感染性胃腸炎	51	糞便	カンピロバクター	

* 遺伝子検査で報告済みの検体を含む。

腸管出血性大腸菌 菌株検査情報

血清型	産生毒素			合計
	VT1	VT2	VT1・VT2	
O157		7	3	10

ウイルス性胃腸炎(集団事例)検査情報

検査区分	検査試料数	陽性数	ノロウイルス		ロタウイルス	その他
			G I	G II		
施設内感染疑いまたは食中毒等	64	8		8		

定点医療機関からのコメント

中野区保健所

・百日咳、13歳男子、抗体上昇にて確認。

全数把握対象疾患 患者報告数 2005年37週

分類	疾病名	東京都分(報告週)					全国分(診断週)	
		34週	35週	36週	37週	年累計	37週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	重症急性呼吸器症候群							
	痘そう							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	コレラ			1		6		34
	細菌性赤痢	2	4	1	6	66	17	408
	ジフテリア							
	腸チフス	1			1	7	1	36
	パラチフス					3		11
三類	腸管出血性大腸菌感染症	20	13	20	12	192	115	2666
四類	E型肝炎	1			1	7	()	(32)
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎					13	()	(133)
	エキノコックス症					1	1	13
	黄熱							
	オウム病					2		26
	回帰熱							
	Q熱					3		8
	狂犬病							
	高病原性鳥インフルエンザ							
	コクシジオイデス症							2
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	炭疽							
	つつが虫病					3		105
	デング熱	2	3	3	5	19	3	49
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱						1	39
	日本脳炎							1
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
ブルセラ症					1		1	
発しんチフス								
ポツリヌス症					1			
マラリア	1				12		48	
野兔症								
ライム病			1		4		6	
リッサウイルス感染症								
レジオネラ症			1		15	1	160	
レプトスピラ症					1	()	(4)	
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	1	3	5	2	133	7	493
	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)	1	1			29	2	202
	急性脳炎					13	(2)	(132)
	クリプトスポリジウム症					1		6
	クロイツフェルト・ヤコブ病					11	3	111
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症					2	2	43
	後天性免疫不全症候群	11	8	8	5	312	11	834
	ジアルジア症					8	2	48
	髄膜炎菌性髄膜炎					3		8
	先天性風しん症候群							
	梅毒	1	1	2	1	54	5	377
	破傷風					1	2	73
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1		1		10		52

2005/09/26集計

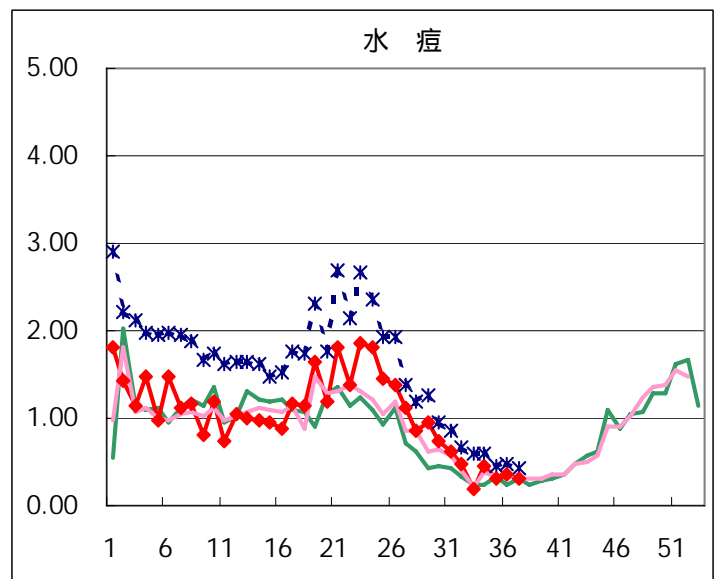
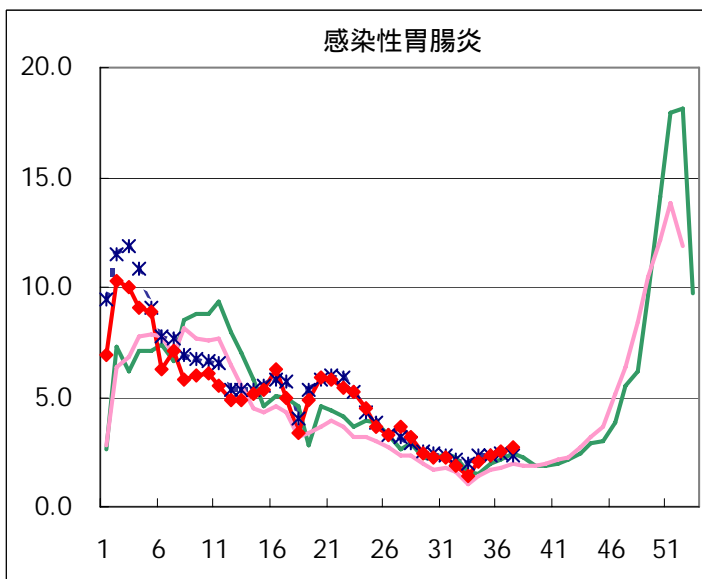
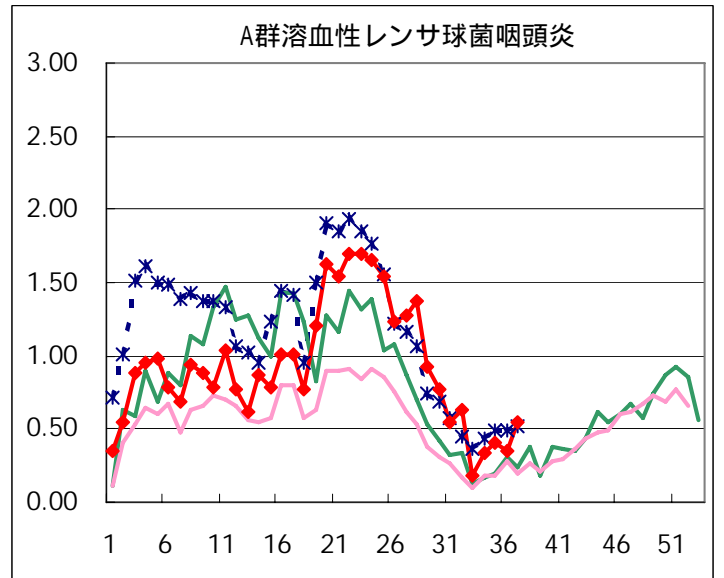
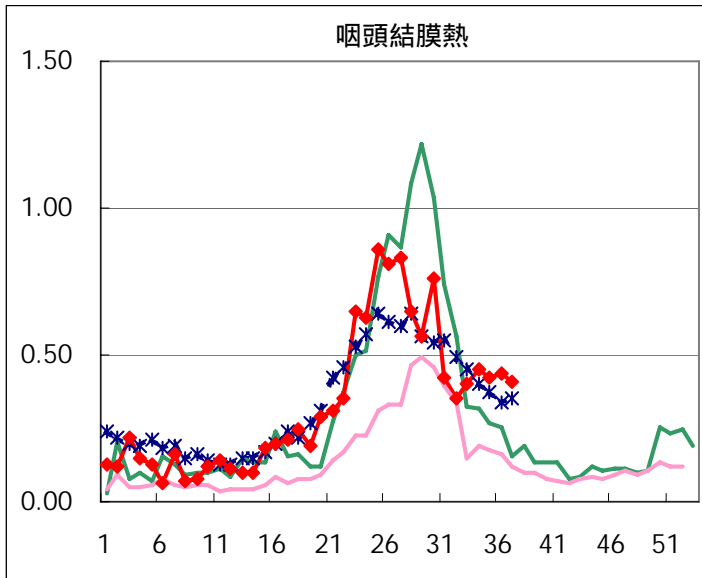
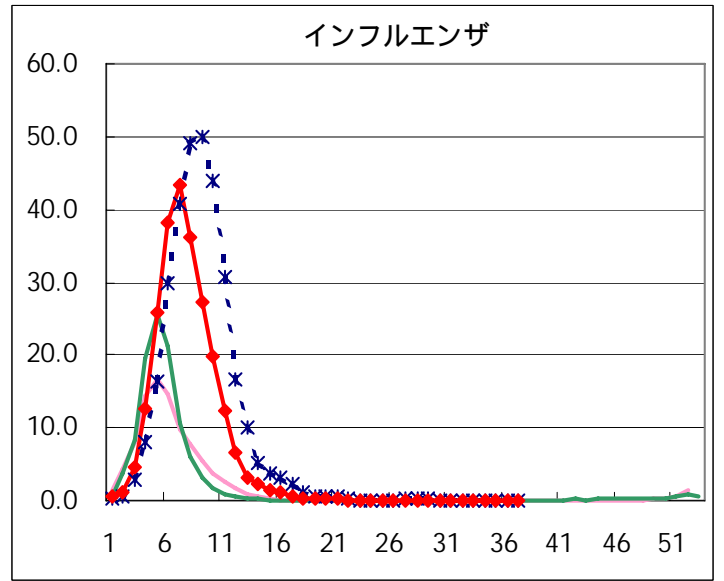
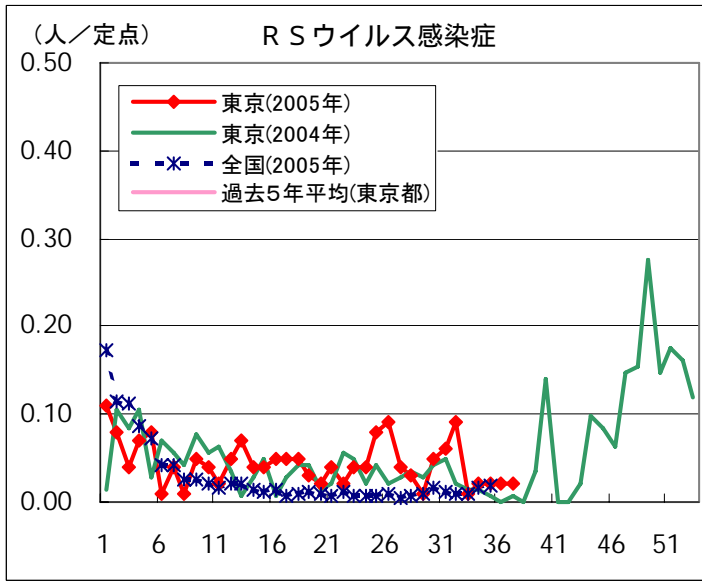
(カッコ内の数値は35週分)

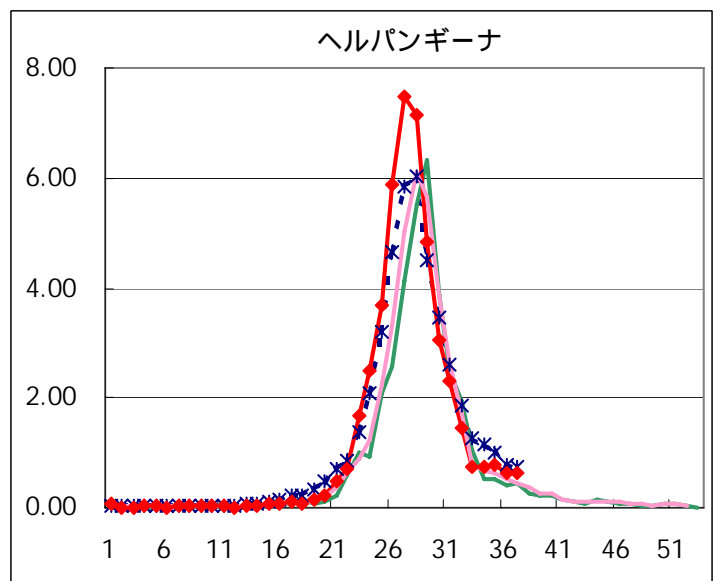
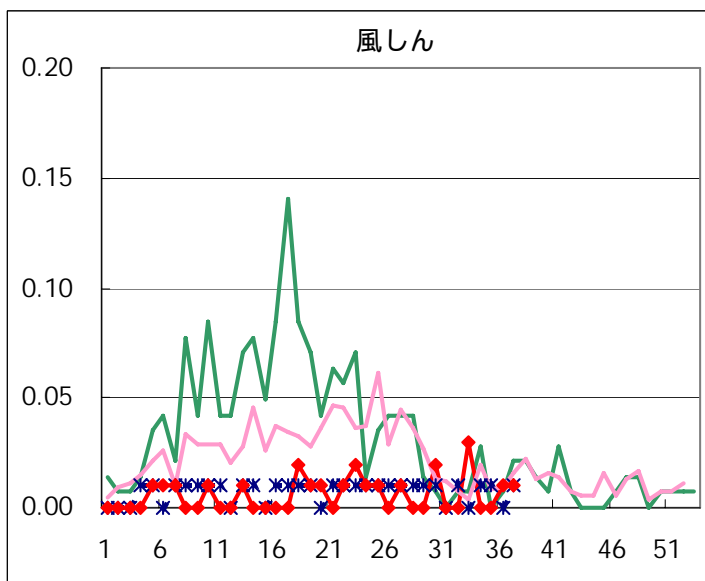
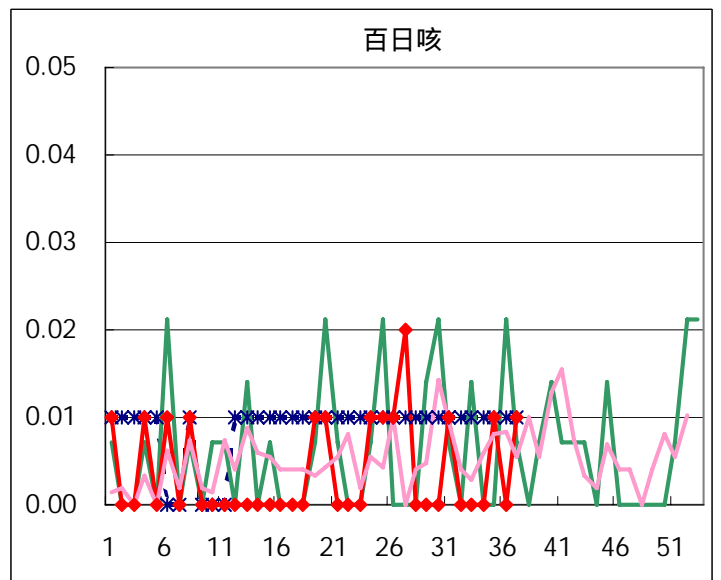
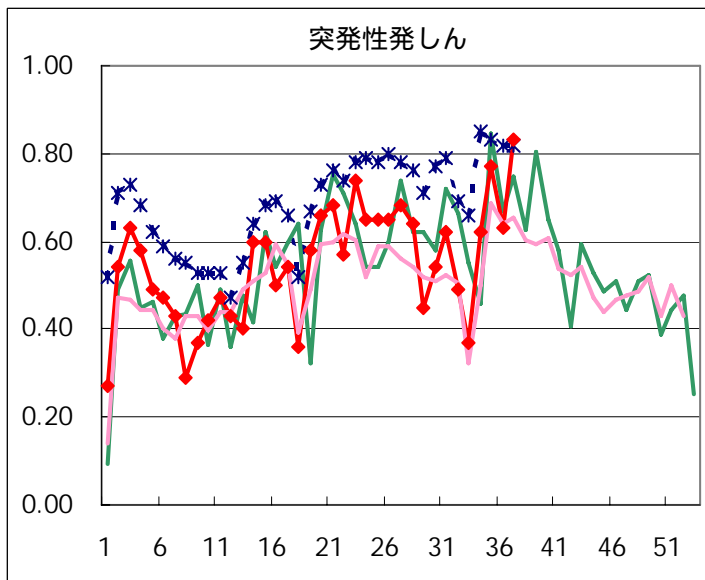
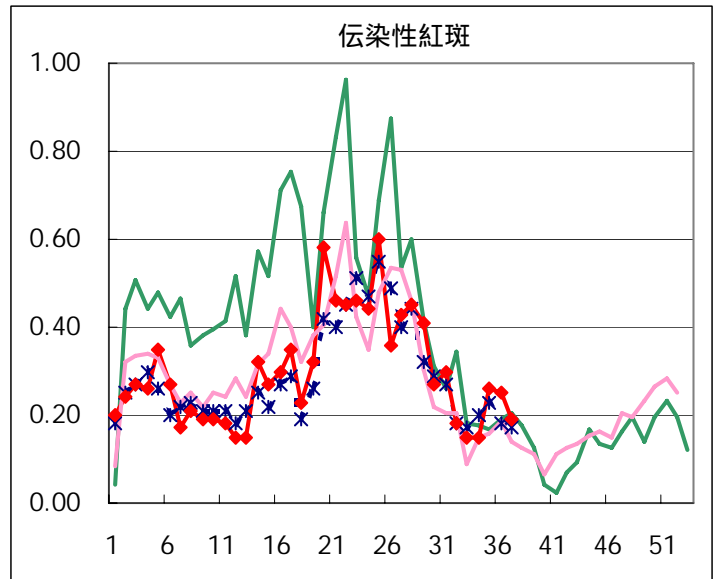
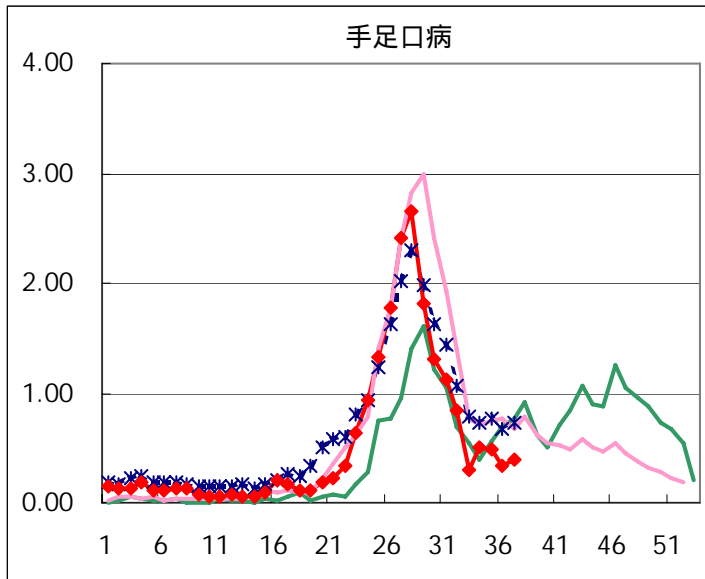
五類定点把握対象疾患 患者報告数【男女別】 2005年37週

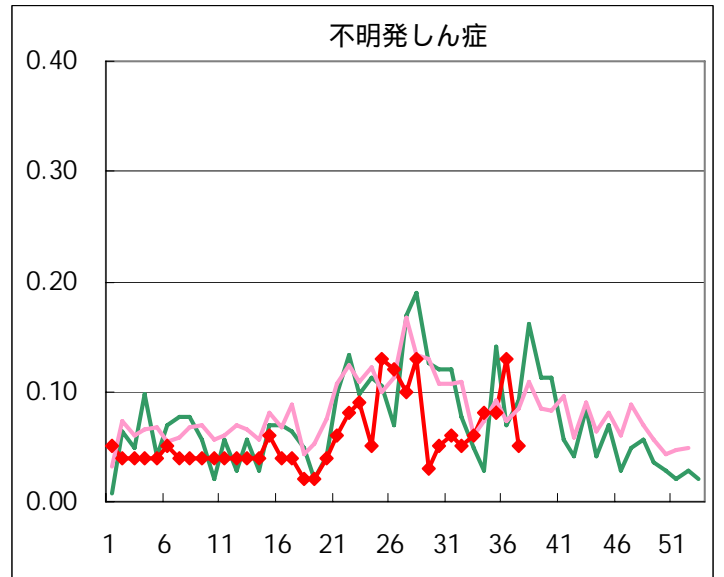
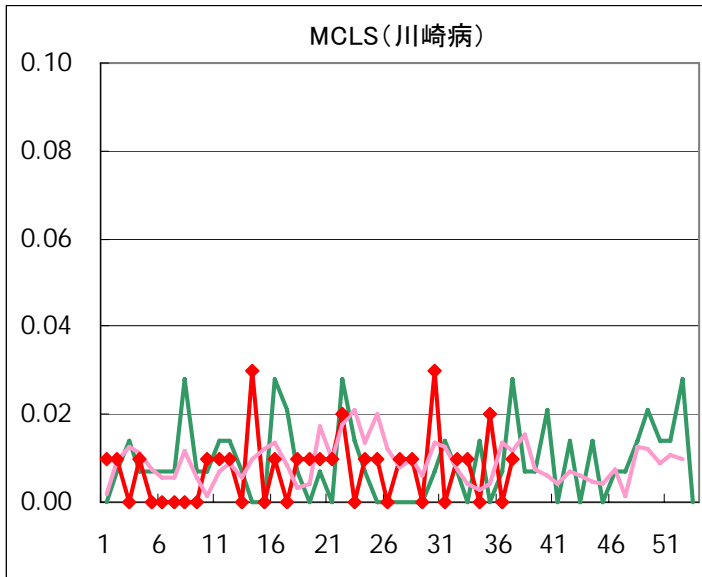
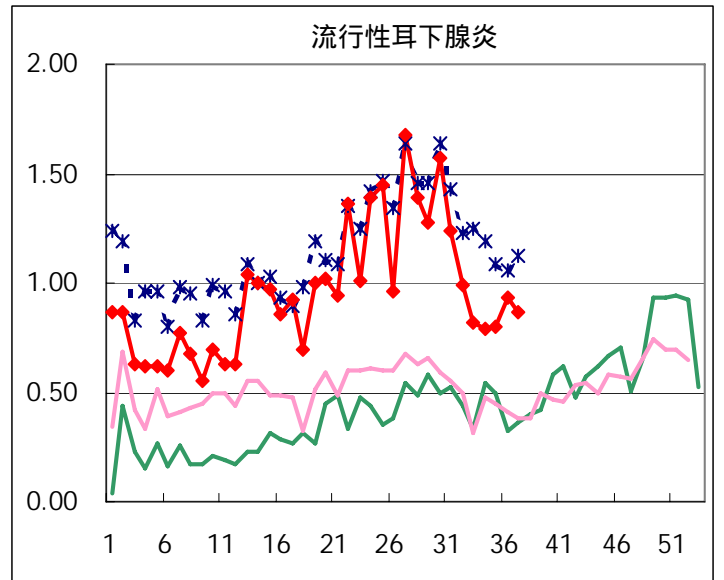
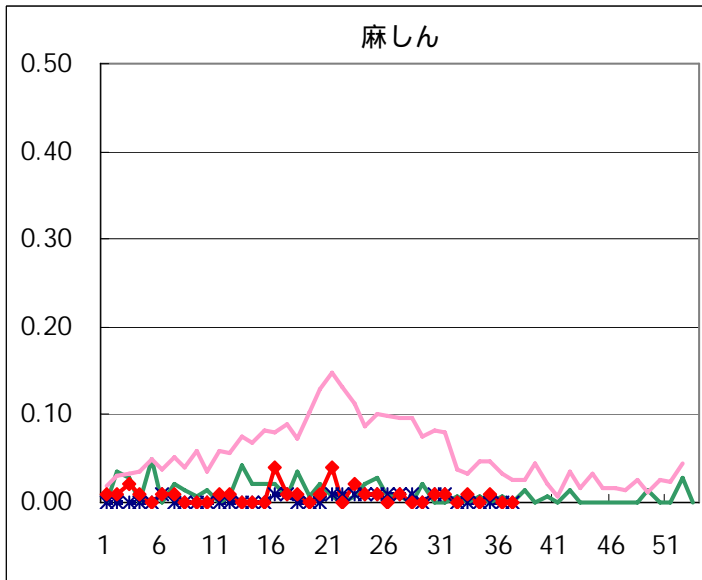
疾病名	性	2005年				4週合計	年累計
		34	35	36	37		
RSウイルス感染症	男	1	2	1	1	5	127
	女	2	1	2	2	7	103
インフルエンザ	男				3	3	21,000
	女						21,380
咽頭結膜熱	男	40	32	35	31	138	963
	女	24	28	27	27	106	784
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	男	25	30	29	47	131	2,660
	女	23	27	21	31	102	2,192
感染性胃腸炎	男	169	181	183	202	735	13,396
	女	125	156	169	177	627	12,438
水痘	男	30	21	19	19	89	2,957
	女	34	24	31	25	114	2,652
手足口病	男	39	38	30	32	139	1,558
	女	32	31	17	24	104	1,249
伝染性紅斑	男	11	13	20	12	56	756
	女	11	24	16	15	66	810
突発性発しん	男	55	52	47	59	213	1,473
	女	33	57	42	59	191	1,398
百日咳	男		1		1	2	12
	女		1		1	2	7
風しん	男						9
	女			1	2	3	22
ヘルパンギーナ	男	54	62	53	38	207	3,370
	女	49	48	37	55	189	3,142
麻しん(成人麻しんを除く)	男		1			1	16
	女						23
流行性耳下腺炎	男	61	67	75	62	265	2,689
	女	51	46	57	62	216	2,306
不明発しん症	男	6	8	14	3	31	177
	女	5	4	4	4	17	124
MCLS	男		2			2	23
	女		1		1	2	13
急性出血性結膜炎	男						5
	女						2
流行性角結膜炎	男	5	8	8	2	23	232
	女	10	5	2	5	22	179
細菌性髄膜炎	男						4
	女		1			1	6
無菌性髄膜炎	男	2			1	3	16
	女						7
マイコプラズマ肺炎	男	2	1			3	45
	女		2	1	1	4	44
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	男						2
	女						2
成人麻しん	男						
	女						

五類定点把握対象疾患 患者報告数【推移グラフ】 2005年37週現在

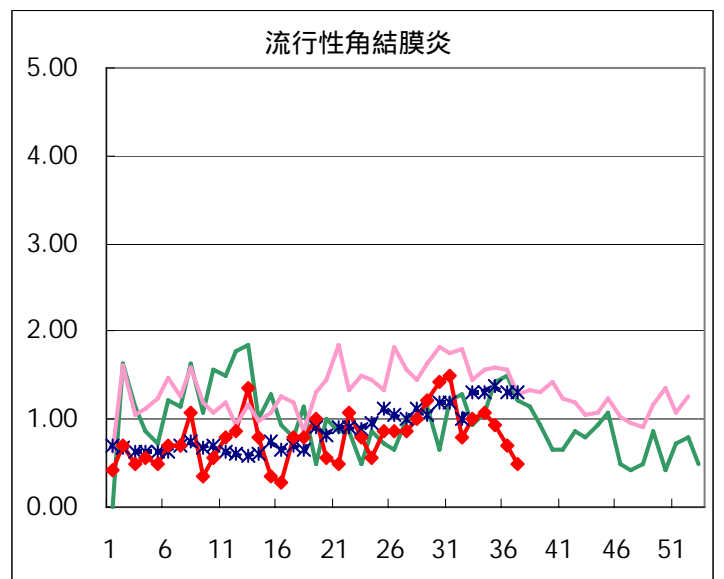
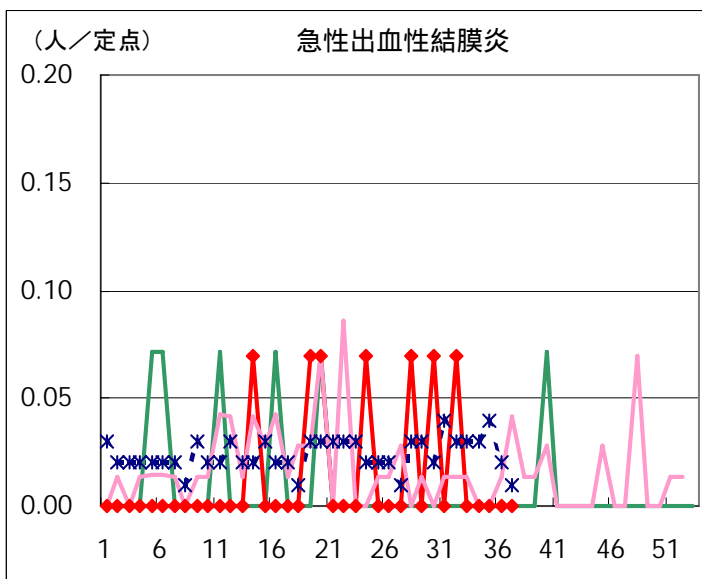
◆ 小児科・インフルエンザ定点



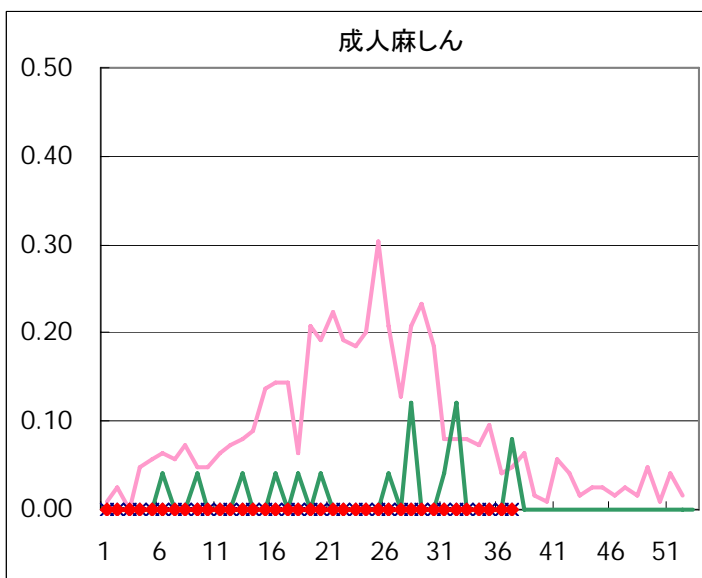
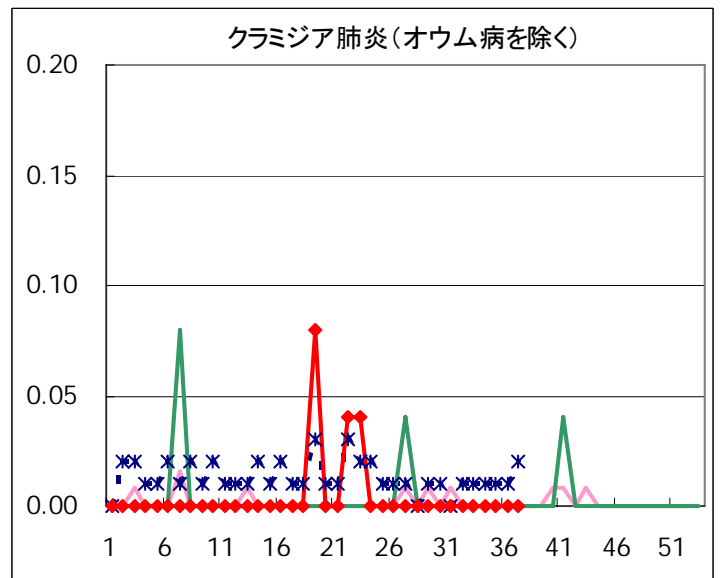
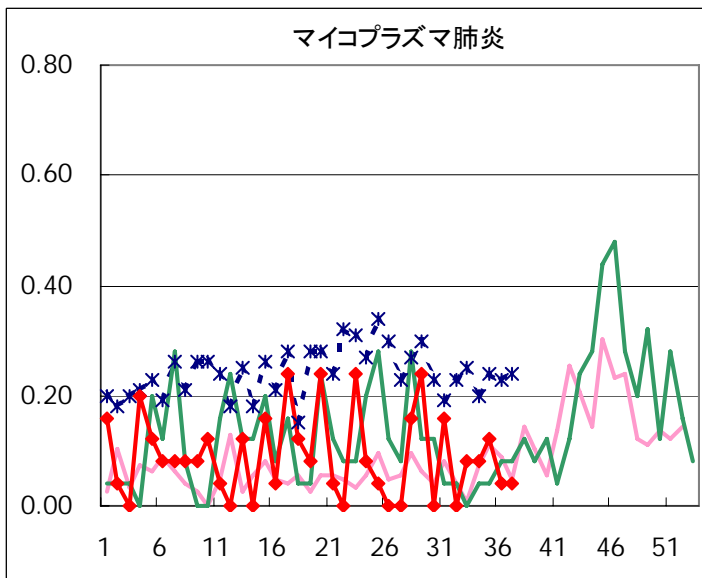
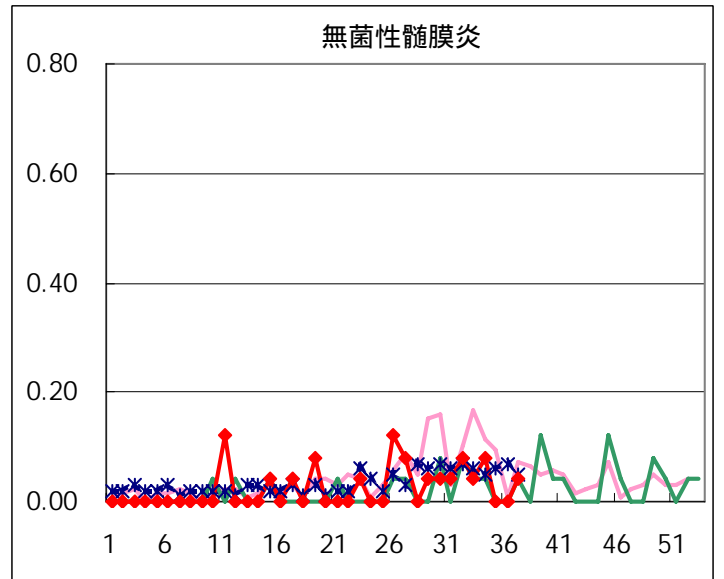
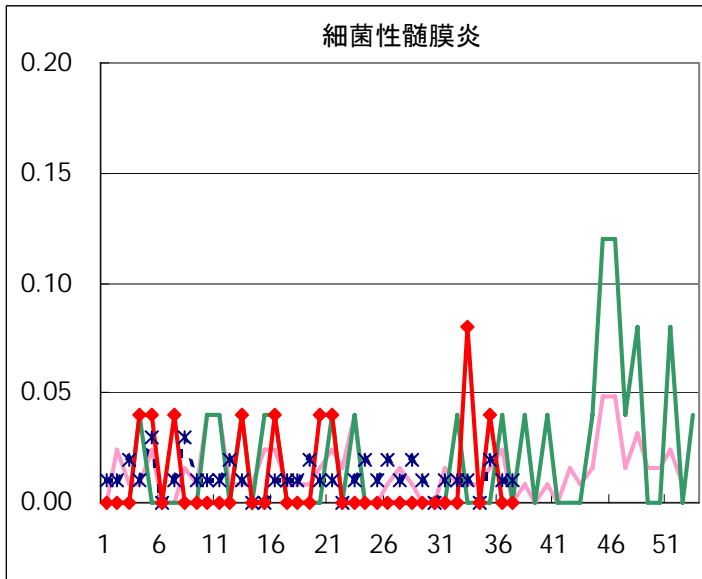




◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



疾患別の定点医療機関数(週単位報告分)		
定点種別	疾患	医療機関数
インフルエンザ	インフルエンザ	178
眼科	急性出血性結膜炎	14
	流行性角結膜炎	
基幹	急性脳炎	25
	細菌性髄膜炎	
	無菌性髄膜炎	
	マイコプラズマ肺炎	
	クラミジア肺炎	
	成人麻疹	
小児科	上記を除く疾病	142

五類定点把握対象疾患 患者報告数【保健所別】2005年37週

	RS ウイルス 感染症	インフルエ ンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳
千代田			3			1				
中央区					1		2	2	3	
みなと	1		5	15	25	8		2	4	
新宿区				1	23		4	1	4	1
文京					3				2	
台東			1	1	17	4			1	
墨田区				1	7	1				
江東区				1	13	2	1		4	
品川区				1	27	2	3	1	8	
目黒区				1	5			1	2	
大田区			4	10	38	3	2		14	
世田谷	2		13	2	32	2			6	
渋谷区			1		13	1		1	5	
中野区					23		5		3	1
杉並				6	18	2	2	1	4	
池袋					3		1		2	
北区				3	7	2	5	1	9	
荒川区			1		11	1		1	4	
板橋区				2	12		2		1	
練馬区				4	2		2	5	3	
足立					10		3			
葛飾区				1	12		6	4	7	
江戸川			14	8	9	4	3	1	3	
西多摩			3	4	5	3	4		4	
八王子			1				2			
南多摩			3	1	11	1	2			
町田		3		6	12	3	1	2		
多摩立川					2	2			1	
多摩府中			3	3	16		2	1	17	
多摩小平			6	7	22	2	4	3	7	
島しょ										

東京都合計	3	3	58	78	379	44	56	27	118	2
定点当り報告数	0.02	0.02	0.41	0.55	2.67	0.31	0.39	0.19	0.83	0.01

五類定点把握対象疾患 患者報告数【保健所別】2005年37週

	風しん	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人麻疹 を除く)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発しん症	MCLS	合計
千代田				2			1		7
中央区				14					22
みなと						3			63
新宿区		1		4					39
文京		7		2					14
台東		2		2					28
墨田区		2		3					14
江東区				11		1			33
品川区		8		9			1		60
目黒区				1					10
大田区		8		24			2		105
世田谷	1	4					1	1	64
渋谷区				3			1		25
中野区				7					39
杉並		1		2					36
池袋									6
北区		1		7					35
荒川区		13		1					32
板橋区		1							18
練馬区		1		5					22
足立		3		1					17
葛飾区		1		5					36
江戸川		10		3					55
西多摩		5		5					33
八王子						1			4
南多摩		12		1					31
町田		10		2		1			40
多摩立川				1					6
多摩府中		3		4		1			50
多摩小平	1			5			1		58
島しょ									

東京都合計	2	93	-	124	-	7	7	1	1,002
定点当り報告数	0.01	0.65	-	0.87	-	0.50	0.05	0.01	

五類定点把握対象疾患 患者報告数【保健所別・定点当たり】 2005年37週

	RS ウイルス 感染症	インフルエ ンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳
千代田			0.75			0.25				
中央区					0.33		0.67	0.67	1.00	
みなと	0.17		0.83	2.50	4.17	1.33		0.33	0.67	
新宿区				0.17	3.83		0.67	0.17	0.67	0.17
文京					1.00				0.67	
台東			0.33	0.33	5.67	1.33			0.33	
墨田区				0.33	2.33	0.33				
江東区				0.33	4.33	0.67	0.33		1.33	
品川区				0.17	4.50	0.33	0.50	0.17	1.33	
目黒区				0.33	1.67			0.33	0.67	
大田区			0.44	1.11	4.22	0.33	0.22		1.56	
世田谷	0.25		1.63	0.25	4.00	0.25			0.75	
渋谷区			0.25		3.25	0.25		0.25	1.25	
中野区					3.83		0.83		0.50	0.17
杉並				1.00	3.00	0.33	0.33	0.17	0.67	
池袋					0.60		0.20		0.40	
北区				0.75	1.75	0.50	1.25	0.25	2.25	
荒川区			0.50		5.50	0.50		0.50	2.00	
板橋区				0.33	2.00		0.33		0.17	
練馬区				0.80	0.40		0.40	1.00	0.60	
足立					2.50		0.75			
葛飾区				0.25	3.00		1.50	1.00	1.75	
江戸川			3.50	2.00	2.25	1.00	0.75	0.25	0.75	
西多摩			0.60	0.80	1.00	0.60	0.80		0.80	
八王子			0.50				1.00			
南多摩			1.00	0.33	3.67	0.33	0.67			
町田		1.00		3.00	6.00	1.50	0.50	1.00		
多摩立川					0.33	0.33			0.17	
多摩府中			0.30	0.30	1.60		0.20	0.10	1.70	
多摩小平			1.00	1.17	3.67	0.33	0.67	0.50	1.17	
島しょ										

東京都合計	3	3	58	78	379	44	56	27	118	2
定点当り報告数	0.02	0.02	0.41	0.55	2.67	0.31	0.39	0.19	0.83	0.01

五類定点把握対象疾患 患者報告数【保健所別・定点当たり】 2005年37週

	風しん	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人麻疹 を除く)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発しん症	MCLS
千代田				0.50			0.25	
中央区				4.67				
みなと						3.00		
新宿区		0.17		0.67				
文京		2.33		0.67				
台東		0.67		0.67				
墨田区		0.67		1.00				
江東区				3.67		1.00		
品川区		1.33		1.50			0.17	
目黒区				0.33				
大田区		0.89		2.67			0.22	
世田谷	0.13	0.50					0.13	0.13
渋谷区				0.75			0.25	
中野区				1.17				
杉並		0.17		0.33				
池袋								
北区		0.25		1.75				
荒川区		6.50		0.50				
板橋区		0.17						
練馬区		0.20		1.00				
足立		0.75		0.25				
葛飾区		0.25		1.25				
江戸川		2.50		0.75				
西多摩		1.00		1.00				
八王子						1.00		
南多摩		4.00		0.33				
町田		5.00		1.00		1.00		
多摩立川				0.17				
多摩府中		0.30		0.40		1.00		
多摩小平	0.17			0.83			0.17	
島しょ								

東京都合計	2	93	-	124	-	7	7	1
定点当り報告数	0.01	0.65	-	0.87	-	0.50	0.05	0.01

五類定点把握対象疾患 患者報告数【年齢階級別】 2005年37週

	RS ウイルス 感染症	インフルエ ンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん
～6ヶ月	2				8	3			2
～1歳					24	4	4	1	57
1歳			8	1	45	7	17	4	52
2歳		1	5	2	27	5	11	2	5
3歳			11	7	33	10	5	3	1
4歳			16	6	43	4	5	3	
5歳			8	16	33	5	4	4	
6歳			4	7	26	5	5	3	1
7歳		1		7	20		2	3	
8歳			1	7	11		1	1	
9歳			3	2	12	1	1	1	
10～14歳			1	9	33		1	1	
15～19歳				3	12			1	
20～29歳	1		1	11	52				
30～39歳		1							
40～49歳									
50～59歳									
60～69歳									
70～79歳									
80歳以上									
合計	3	3	58	78	379	44	56	27	118
先週比	0	3	-4	28	27	-6	9	-9	29

注:小児科定点把握対象疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	百日咳	風しん	ヘルパン ギーナ	麻しん (成人麻しん を除く)	流行性 耳下腺炎	急性出血性 結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発しん症	MCLS
～6ヶ月	1		2						
～1歳			5		1			3	
1歳		1	29		5			1	1
2歳			15		11		1	1	
3歳			13		15				
4歳			11		28				
5歳			5		21			1	
6歳			2		13				
7歳			1		4				
8歳					5				
9歳			2		5				
10～14歳	1		3		6				
15～19歳		1			2				
20～29歳			5		8		2	1	
30～39歳							3		
40～49歳									
50～59歳							1		
60～69歳									
70～79歳									
80歳以上									
合計	2	2	93	-	124	-	7	7	1
先週比	2	1	3	0	-8	0	-3	-11	1

注:小児科定点把握対象疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

病原体・抗体検査情報

週別検出状況 2005年30週～37週

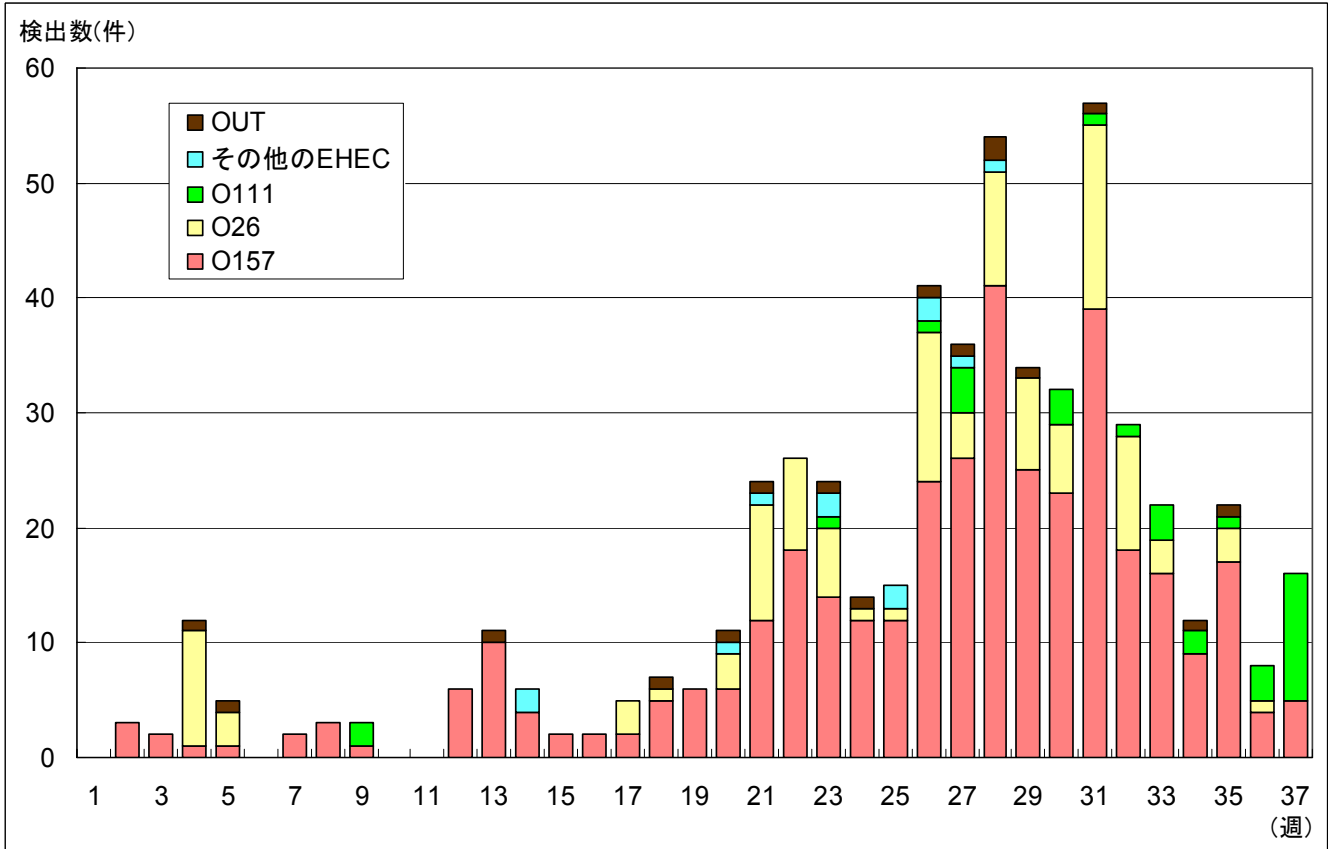
検出病原体・抗体		検体採取週								合計
		2005年								
		30	31	32	33	34	35	36	37	
ウイルス	アデノ	1	5	12	8	5	11	6	12	60
	ライノ		2	2	1		1	1		7
	ポリオ			2		1				3
	コクサッキーA群			1		1	4		7	13
	コクサッキーB群			1		1	1		2	5
	エコー			5					3	8
	エンテロ71						1			1
	その他のエンテロ	2	5	6	6	5	6	17	7	54
	単純ヘルペス	1		1	1				1	4
	水痘・帯状疱疹			1						1
	ヘルペス6/7			7	2	3		1	2	15
	EB	2	2	1			3	2	1	11
	サイトメガロ		2	1	2			3	1	9
	ムンプス	3	3	2	3	1	2			14
	麻疹									
	風しん							1		1
	パルボB19			1	1	1				3
	RS		1	2		2	1	1	1	8
	ノロ		4	10			9		8	31
	ロタ					1				1
	インフルエンザAソ連型							9		9
インフルエンザA香港型	1				2				3	
インフルエンザB型										
デング				1			2		3	
その他のウイルス							1		1	
細菌	カンピロバクター		1					1	1	3
	サルモネラ									
	腸管出血性大腸菌	10	9	11	15	20	16	11	10	102
	その他の腸管系病原菌	1	2		1	4		3		11
	溶血性レンサ球菌	2	3			3	3			11
	MRSA	1	1					4		6
	MSSA				1					1
	その他の細菌	1			1					2
その他の病原体					2					2

臨床診断名別検出結果 2005年30週～37週

臨床診断名 検出病原体	インフル エンザ	上 気 道 炎	下 気 道 炎	感 染 性 胃 腸 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 連 菌 咽 頭 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	ヘル パン ギ ー ナ	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	不 明 発 し ん 症	流 行 性 耳 下 腺 炎	水 痘	麻 し ん	風 し ん	そ の 他	合 計
搬入検体数	11	33	24	197	64			11	4	1	2	32	9	6			257	
アデノ		14	8	5	1			7	1	1	1	1	2				19	60
ライノ		2			2							1		1			1	7
ポリオ														2			1	3
コクサッキーA群		4							6	2				1				13
コクサッキーB群				2													3	5
エコー			1		2							2					3	8
エンテロ71																	1	1
その他のエンテロ		8	1	1	22				4			4					14	54
単純ヘルペス		1			1												2	4
水痘・带状疱疹しん														1				1
ヘルペス6/7		1			2					1	1	8					2	15
EB		2									1	2					6	11
サイトメガロ			2									1					6	9
ムンプス					8								5				1	14
麻しん																		
風しん																	1	1
パルボB19											2	1						3
RS		1	7															8
ノロ				31														31
ロタ				1														1
インフルエンザAソ連型	9																	9
インフルエンザA香港型	2																1	3
インフルエンザB型																		
カンピロバクター				3														3
サルモネラ																		
腸管出血性大腸菌				11													91	102
その他の腸管系病原菌				1													10	11
溶血性レンサ球菌																	11	11
その他の病原体																	15	15
備考	この表の「その他の病原体」は「週別検出状況」の表にある「デング」「その他のウイルス」「MRSA」「MSSA」「その他の細菌」と「その他の病原体」の合計である。																	

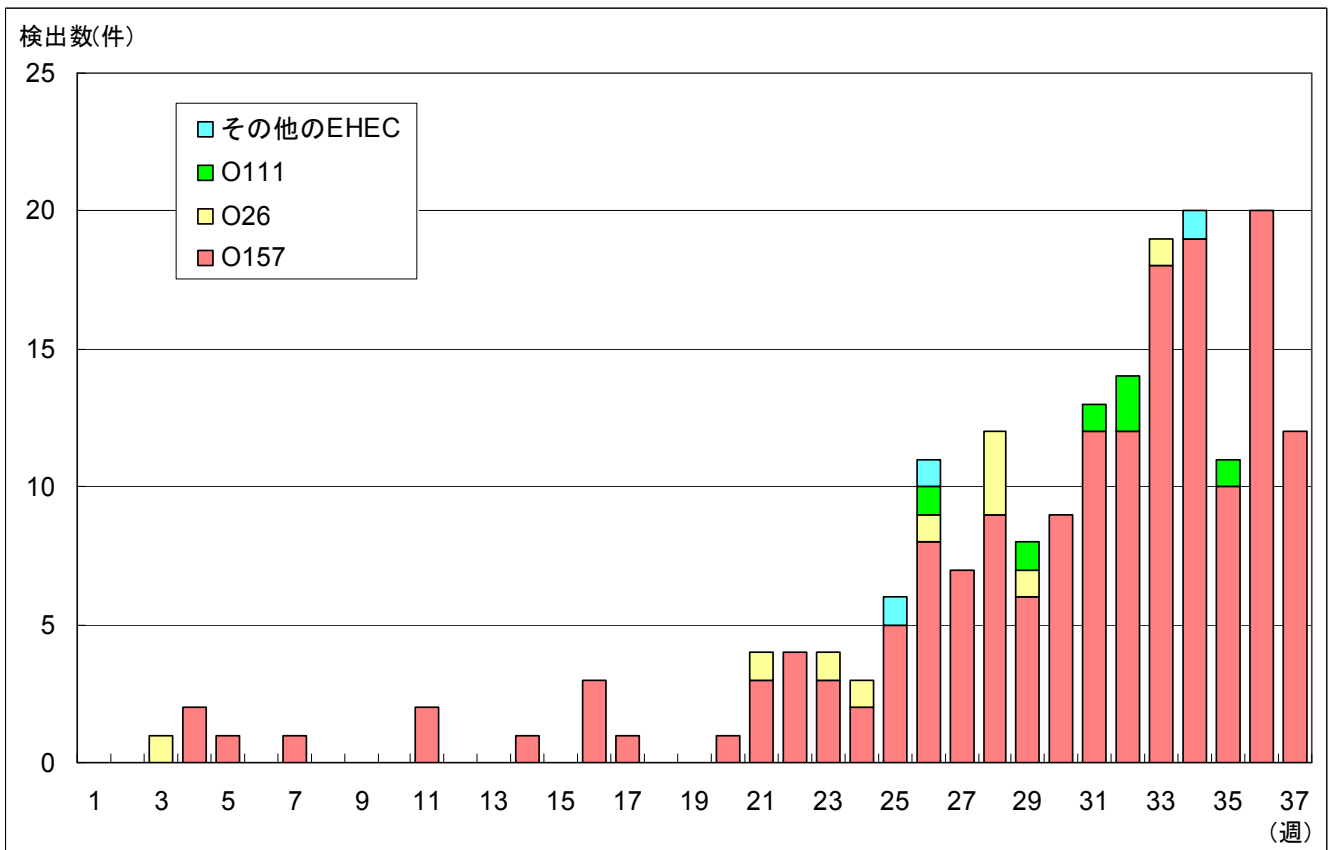
クローズアップ (腸管出血性大腸菌感染症)

腸管出血性大腸菌感染症患者から検出された腸管出血性大腸菌(全国)



IASR 病原微生物検出情報 (2005年9月22日現在報告数)

腸管出血性大腸菌感染症患者から検出された腸管出血性大腸菌(東京都)



東京都感染症発生動向調査

< 感染症豆知識 >

劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、軟部組織壊死、成人型呼吸窮迫症候群、播種性血管内凝固症候群、多臓器不全、ショックなどを起こすA群レンサ球菌による感染症で、1980年代に入り欧米で報告された。わが国においても1992年に初の劇症型症例が報告されて以来、症例報告が相次ぎ現在でも年間50例程度の報告がある。

A群レンサ球菌感染症は、小児における咽頭炎の起因菌として日常的にみられ、常用抗生剤が有効なため、あまり問題視されていなかった。それが、発症者のおよそ40%が死亡している劇症型となる機序については、未だ明らかにされていない。劇症型患者から分離されたA群レンサ球菌のT血清型別は、T1型とT3型で半数以上を占めている。一方、咽頭炎患者由来株は、T1、T4、T12型で半数を占め、必ずしも一致していない。また、A群以外のB群、C群およびG群レンサ球菌による本症も報告されている。

現在、溶血性レンサ球菌感染症治療の第一選択薬としては、ペニシリン系またはセフェム系薬剤が常用されているが、A群レンサ球菌のβ-ラクタム系薬剤に対する耐性株はみられていない。一方、β-ラクタム系薬剤アレルギーを持つ患者への処方あるいは薬剤の宿主細胞内移行性の高さからマクロライド系またはリンコマイシン系薬剤を選択する場合があるが、マクロライド系薬剤に対しては耐性株が出現しているため、使用に際しては注意が必要である。

(文責 東京都健康安全研究センター微生物部 主任研究員 奥野ルミ)